

働きすぎ黒書 ニュース

全日本教職員組合（全教）生権局

2006年12月21日

東京都千代田区二番町12-1 3F

子どもにかける時間は減る一方！

東京・小学校教員

毎朝7時30分前には出勤。でも夜8時前に学校を出られるのは、週1日あるかないかです。出来そうと思われると、どんどん仕事が回ってきて、今年度は春休み中の4月3日からフル回転でした。学校全体にかかわることだけで、毎日12時間前後も働き、肝心の自分のクラスの仕事はほとんど出来ません。学年会は土曜日。土曜日勤務は当たり前で、若い人はほとんど日曜日も出勤しています。

提出書類や保護者への配布物（学級・学年通信など）は、全てパソコンで仕上げ、主幹・副校長・校長に見せてからとなっているので、配布の3・4日前には仕上がっていなければなりません。だからリアルタイムのことは載せられません。

校内研究も学年や分科会で相談の上、自分で指導案を作り、さらに分科会で練り上げ、書き直して仕上げます。しかし、主幹に見せると分科会の意図と違う内容に書き直しの指示が出されることがあります。やっと書き直しても、今度は校長がひっくり返すことがありました。そうすると午前2時までかけて書き直さざるを得ません。今年は5月の連休明けに提出の書類が十数種あり、連休も仕事をしていました。

このようにエネルギーを使い果たせば、子どもにかける時間は減る一方、やる気もおきません。

一体どのくらいの時間働いているのだろうと4月の仕事に費やした時間を計算してみました。4月の正規の勤務時間は160時間（土曜、日曜を除く20日×8時間）なのに、実際には280時間も働いています。つまり15日間も多く働いていることになるのです。

しかも学校にいる時間だけの計算です。家に持ち帰った時間を計算をすれば途方にもない時間になります。こんな働き方をしているわけはありません。試しに月給を280時間で割ってみたら、時給800円を切りました。なんだか悲しくなってきました。